

## 早明浦ダム再生事業環境検討委員会（第2回） 議事要旨

開催日時 令和元年7月2日（火） 14:00～16:30

開催場所 高知市文化プラザかるぼーと 9階特別学習室

出席委員 荒川 良 高知大学教育研究部総合科学系教授

石川和男 松山東雲女子大学名誉教授

石川慎吾 高知大学名誉教授

○笹原克夫 高知大学教育研究部自然科学系教授

高橋勇夫 たかはし河川生物調査事務所代表

藤原 拓 高知大学教育研究部自然科学系教授

（○：委員長）

### 議事要旨

#### 1) 規約について

機構提示の規約（変更案）が承認され、令和元年7月2日付で施行することとなった。

- ・規約の委員名簿に記載の石川慎吾委員の所属について、特任シニアプロフェッサーを削除し、高知大学名誉教授のみと改める。

#### 2) 前回検討会でのご指摘について

委員会の透明性の確保に関し、規約では原則公開としているが、貴重種の情報等を扱う場面では非公開としている。この点は当然である。しかし、できるだけ公開できるところは公開していただきたい。差し支えない範囲での公開をどのようにすべきか事務局にて検討すること。

#### 3) 事業の進捗状況

事務局より増設放流設備の配置及び予備放流方式の計画について説明した。

また、建設発生土受入地から生じる濁水への対応について、端部は構造物で土留の構造物を設置するため土砂流出量は少ないと考えられること、沈砂池等を設けて対策することを補足説明し、ご理解を得た。

#### 4) 調査項目及び環境影響評価の考え方

事務局より環境への取り組み方針、既往資料の整理について説明した。

なお、委員からの指導・助言については、次のとおり。

- ・人と自然との触れ合いの活動の場、廃棄物については、他の項目同様に定量的に評価することに違和感がある。評価の方向性について、委員会で継続して議論することとする。
- ・土壌について、土壌汚染の観点を考慮する必要があると思われる。項目としての示し方については、委員会で継続して議論することとする。

#### 5) 調査結果の報告及び今後の調査計画

事務局より自然環境に係る調査結果の報告と今後の調査計画について説明した。

なお、委員からの指導・助言については、次のとおり。

- ・降下ばいじんについて、黄砂による影響をどのように評価するのか。整理して委員会に報告すること。

- ・猛禽類の調査について、よく調査ができていると思われる。
- ・陸上昆虫類について、これまでの調査で事業による改変を見直すような種は見当たらない。
- ・確認種リストの学名に誤記が見られるため、確認し修正すること。
- ・ヨシノボリ類について、陸封か回遊か可能な範囲で整理すること。
- ・重要種として生育が確認された種の中には、発芽条件がわかっていないため播種での保全は難しいもの、採取が難しく個体の移植が難しいものがある。地域個体群の視点で評価する方法も考えられることから、調査地点を広げ生育状況を確認すること。
- ・下流物理環境について、瀬、淵、材料分類などは、資料に定義付けを記載すること。
- ・人と自然との触れ合いの活動の場については、本山町に新たに開設されたアウトドアビレッジ本山か集客が見込める観光施設への影響を考慮することが重要である。

#### 6) 水質予測の進め方

事務局より水質予測の進め方について説明した。

なお、委員からの指導・助言については、次のとおり。

- ・浮遊懸濁物（SS）の記載は誤りであり、浮遊物質量(SS)に修正すること。また、定期水質調査結果の総リンについては、調査記録を再度確認し整理すること。
- ・水質調査項目の大腸菌群数については、10年前に国土交通省で議論された経緯があり、大腸菌に取り扱いの見直しをすべきと考える。  
→当事業で取り扱いの見直しは難しいが、対応できる措置として、大腸菌群数と糞便性大腸菌群数を併記することとする。
- ・濁水時に出水があった際のDO消費については、底泥中の有機物によるものと考えられる。VSSを調査項目に加えることを検討すること。
- ・工事中の濁水について、濁水を沈砂池や濁水処理施設に適切に導くことが重要である。また、積み上げた工事ズリが原因で河川のpHが上昇した事例があることから、工事ズリの適切な管理を行うこと。
- ・増設放流設備による濁水長期化の軽減については、定量的な評価に努めること。
- ・予測評価項目について、現象と指標（測定項目）が混在している。現象に対する評価項目を整理すること。
- ・予測手法の使い分けについては、資料に説明（考え方）を記載すること。

#### 7) 今後の予定

事務局より今後の予定について説明し、委員会です承された。

以上